受験生諸君へ！

何故入試粉砕を叫ぶか

闘争の圧殺と新たなる擬制を拒否し、学園の根本的矛盾の解決のために……

法学部自治委員会

全ての明大受験生のみなさん！

我々明治大学全学自治会統一は、この入試の欺瞞性を暴露し、我々が「入試阻止」を叫ぶ際の基本的態度を明らかにしたいと思います。

明治大学では、66～67年にかけて学費値上げ阻止闘争が闘われましたが、学校当局の一方的暴力的圧殺のきえに、阻止闘争に決起した学友の提出した問題を何も解決することなく、敗北を余儀なくさせられたのでした。

しかしながら昨年の4月12日、吉田体制打倒のための英雄的闘いを通じ、状況の中で果敢に闘いぬいていた日大全共闘の諸君の学園奪還闘争にうちむいて襲いかかった権力＝機動隊は、明大構内に不法侵入し、お茶を濁すでいた学友までも暴行を加え逮捕するという〝事件〟をきっかけに、学校側の権力への態度や学に闘争以後学内にウッ積している矛盾、疑惑・学館闘争問題やスパイ活動糾弾としての学生部問題、或いは農学部校舎問題にから、農学部の帝国主義的編成（六項目要求という形で改良要求）、そのうえ、学内諸矛盾を生みだすところの帝国主義の社会再編の一環としての大学管理＝そのメルクマールとしての中教審答申＝大学立法という諸問題を暴く、局にそれに対する態度を鮮度の団交でせまり、一向に解答のえられぬ、遂に無期限バリストで戦う決意をしたのでした。学校当局は大学立法で提出した権力に一切闘うことなくして屈し、ついに10月9日機動隊が入にるバリケードに解除という手段をとり、我々は権力に対してあくまで闘いの姿勢をとり、バリケード死守＝徹底抗戦を闘いきりました。学園ロックアウトという苦しい状況の中で、我々は10・11月闘争を闘い抜き、現在も敢然的正当性を確認し、全学共、三里塚、に闘いを続けています。

全ての受験生のみなさん！　敗戦後、二度と戦争はいやだ！というところから築なれた学生運動は、戦争反力闘争＝大学の批判へ反戦平和闘争→大学の自治へ平和と民主々義運動→60年安保闘争→反戦・反帝闘争と発展し、闘うものの直面政治過程への登場＝その表現としての全共闘という形で、常に問題の本質へ迫ってきたのです。学内諸矛盾→大学立法→安保・沖縄闘争という我々の闘いの方向に、大学立法には闘争の圧殺と新たなる擬制のみを、我々の提出した問題は明大日共細胞作制のでっち上げ、いわゆる暴力学生のみで逮には権力に屈して闘争圧殺を敢行する学校当局の、根本的矛盾の解決ぬきに正常な入試を行なう事はゆるされないのです。入試粉砕闘争は大衆的闘争を展開する試みです。